



里山と伝統・文化

報告者：清藤一順



分科会の内容紹介

- ・日時：2008年 5月10日
- ・場所：千葉県立中央博物館
- ・参加者数：12名
- ・内容 第2・3回の分科会の成果と併せて、今回を集大成に縄文時代から中近世までのムラの景観を時代を追って考えることによって、里山の源流をたどった。

分科会の様子



本分科会のまとめ

■里山の源流

各時代の土地とのかかわりを歴史学・考古学の分野から掘り下げることによって、弥生後期の谷津利用の開始に里山の源流があると結論

■里山景観の見方

遠い昔から形成され続けてきた里山が重なりあった結果が、現在の里山景観となっているとの認識が重要

■過去の開発と抑制の相克

歴史的な変遷を具体的に検証・分析した上で、これからの自然と人間が共生する里山文化？のあり方を新たに組み立てる必要がある。

